

読書会を開こう ～世界一美しいぼくの村～

国語科

第4学年

育成を目指す資質・能力

【課題発見・解決力】

単元の概要

世界一美しいぼくの村は、戦争の影が感じられるアフガニスタンのパグマン村に住んでいる少年ヤモの1日を通して、家族愛や郷土愛が描かれており、結末では、全てを破壊してしまう戦争の悲しさが強く感じられる教材である。この物語の作者は、本校の校歌の作詞者でもあることに気付かせるために、単元の最初に校歌の歌詞を読み、作詞者の思いや人物像を想像する活動を経て教材文へ入り、作詞者の思い等を再検討していく学習活動を設定した。読書会では、物語のよさや作者の人物像に話題が及び、校歌に込められた作詞者の思いを探るだけでなく、自分たちの考えが合っているのか作詞者に確認したいという新たな課題が生まれる等、児童が主体的に学習する姿が見られた。

単元の目標

本校とつながりのある絵本作家がかいた物語を読み、中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して物語のつながりを考えたり、言葉を引用して感想を伝えたりすることを通して、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

単元の計画（全15時間）

【課題の設定】（2）

- 「龍王小学校校歌」の歌詞を読み、作詞者を知ったり、歌詞の意味を考えたりしながら、校歌に込められた作詞者の思いや人物像を想像する。
- 読書会を開くという言語活動を設定し、「世界一美しいぼくの村」を読み、学習計画を立てる。

【情報の収集】【整理・分析】（8）

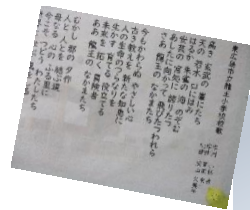
- 世界一美しいぼくの村」を読み、ヤモの家族を思う気持ちやふるさとを思う気持ちを読み取る。
- 物語の最後の一文に着目し、その効果や登場人物のその後について想像し、話し合う。
- 物語をより深く味わうために、つながりのある物語を読む。
- 物語の中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して読み、2つの物語の関連を読み取る。
- つながりのある物語を読み、ヤモの友達を思う気持ちやふるさとを思う気持ちを読み取る。

【まとめ・創造・表現・実行】（4）

- つながりのある物語を読んで、自分の感想や印象に残った言葉などをまとめ、読書会の準備をする。
- 読書会を開き、つながりのある本を読んだ感想や、作者の伝えなかったこと等を交流し、それぞれの感じ方やよさに気付く。
- 「龍王小学校校歌」の歌詞に込められた作詞者の思い等を再検討する。

【振り返り】（1）

- 「読書会で感想を伝えることができたか」「作詞者の思いや新たな課題を考えられたか等について振り返る。



【ポイント】

課題発見・解決

龍王小学校校歌の歌詞から作詞者の思いや人物像を想像した後に教材文を読むことで、作者が伝えたいこと等自ら見つけた課題に対して粘り強く解決できるようにする。

単元全体を貫いた活動活動とその特徴

読書会に向けて、教材文やつながりのある物語を読むことにより、一人で読んだ時には得られなかった感動や視点の交流を通して、読み取りを深めたり、自分のものの見方や感じ方を振り返る。また、作者の生き方から校歌に込めた思いを紐解きながら、校歌をより身近に感じることができるようにする。

他教科との関連

社会科「世界にひろがる人とつながり」

